

【3年目看護師研修 ～ナラティブ 4年目看護師の職場発表会より～】

～A氏の思いを知って～ 濱田愛耶看護師(1病棟)

私が看護師1年目の時にA氏は転院してきました。A氏は50代男性、農作業をしている時に誤ってビニールハウスの上から転落し、脊髄損傷となりました。一命はとりとめたものの気管切開にて人工呼吸器をされ、首からは全く動かず、膀胱留置カテーテルを挿入されていました。顔は動かさず声はでないものの、ロパクで意思疎通がはかれていました。

最初は、若い患者さんということで、どう接していいか戸惑うところもありましたが、自分の親と同年代ということや、何度か接することでとても気さくで話しやすい方だと思いました。打ち解けるのにあまり時間はかからなかったように思います。

A氏が転院してきてから、どのくらい経ったか覚えていませんが、自然と挨拶もできプライベートなことなども話せるようになった頃だったと思います。その頃私は、A氏に直接聞いたことはなかったのですが、受傷したことをどう思っているのかと考えることがあり、また漠然と多少の受け入れができていたのだと思っていました。

ある日、A氏の検温中だったと思います。ふと、『あの時死んじゃったらよかったのに。』と悲しいような悔しいような表情でA氏が言ったのを覚えています。私はその時何も言葉が返せず少し沈黙が流れた後A氏の方から、変なことを言ってごめん、というような言葉を苦笑い交じりに言われたように思います。その後、A氏は他院へ転院することとなり、現在はスピーチカニューレにて声も出せるようになり、リハビリも頑張っていると言いました。その発言があってから転院するまでの間、もう一度そのような言葉を聞くことはありませんでした。

時々A氏を思い出すことがあり、それと同時にその時のことも思い出されますが、今でもどんな言葉をかければよかったのか分かりません。当時、私は命が助かっただけでも良かったな、と思っていました。しかしその言葉を聞いて、まだ働き盛りの年齢で、三人の娘さんがいることも考えれば、A氏からすれば受傷したことで家族を養っていくことが出来ず、負担になっているという思いがあったのだと考えました。それまで普通の暮らしをしていたのにも関わらず、突然ベッドの上で過ごすしかなく、動きたくても動けなくなったとき簡単に受け入れられるはずがないと思いました。多分、A氏は家族に負担をかけるくらいなら、あの子が死んでいた方がよかったという思いがあったから、そんなことを言ったのだと思います。

ただ、それをなぜ私のような新人に言ったのだらうかと思いました。確かにコミュニケーションはとれていましたし、タイミングやその時の雰囲気もあるのでしょうか、誰にでも言えるようなことではない思いを聞くのが、私なんかでよかったのかと考えてしまいます。どうしてA氏がその気持ちを言う気になったか理由は分かりませんが、今ではA氏が思いを打ち明けてくれたことは嬉しいことだと思います。その時は戸惑いの方が大きかったのですが、思いを打ち明けてくれたということは、私を信頼してくれていたのだと、後になって思うようになりました。

“傾聴”とよく言いますが、実際に話を聴いてもほとんどの患者さんから本当に思っている気持ちを聴くことは難しいです。また無理に聴くことでもなく、一番いいかたちは患者さんの方から自然と言ってもらうことが理想だと思います。

今、振り返るとA氏のように打ち明けてもらったことは一番いいかたちで思いを傾聴することができたのかと思います。日々忙しい業務の中で、患者さんの思いを傾聴することは難しく、一人一人に時間をかけることもあまりできていないのが現状です。けれど、今回の経験を通して何十分何時間とかけなくても、毎日の勤務の中でどのような接し方や態度をとることで、信頼関係を築くことにつながると感じました。最近、機械的に業務をこなしているなど思うことが多くなってきたので、傍にいる時間や一人にかかる時間が短くても態度や言葉に気遣いをもって接していきたいと、改めて思いました。

～化学療法を受ける患者との関わりで学んだこと～ 濱田恵里看護師(1病棟)

3年目になり、一番緊張したのが化学療法(以後ケモ)の看護でした。入院から実施まで関わることになりとても緊張したのを覚えています。それまでは、ケモ途中の検温、終了後の対応しかしたことがありませんでした。それでもいつも緊張していて、患者様とはあまり会話も出来ず副作用のことしか聞けないことがほとんどでした。特に、体温計が鳴るまでの時間はとても長く感じました。そんな時、ケモの実施にあたり患者様との些細なやりとりで喜びを感じたことが忘れられません。

ケモの実施に数回フォローに付いてもらい徐々に慣れてきた頃、当時少し苦手だなと感じていたA氏のケモにあたりました。A氏は、口数の多い方ではなくこちらからの質問や、話に答える程度の会話しかしたことがなく、無言の時間が流れる度に気まぐずいような、なんとも言えない緊張を感じていました。

その日も、緊張しながらいつもと同じ様に入院のお迎えに行きました。病室に着くまでの間、退院後の副作用や自宅での過ごし方についてA氏に聞いていました。病室に着いて入院時の検温をとっている時、ふとA氏から話かけられました。今は、何と話しかけられたのか思い出せません。しかし、その時の自分の緊張が溶けたのと同時に、「嬉しいな」という思いが湧いてきたのは、今でもはっきり覚えています。

A氏の一言がきっかけで何気ない会話が始まり、A氏抱えていた苦手意識もなくなりました。それからは、挨拶だけでも以前とは違った思い出できるようになりました。また、薬剤の変更で副作用が強くなったときには、その副作用についての思いを少しですがA氏の口から聞くことができました。自分の中で、勝手に寡黙なイメージをもっていたA氏の“素”の思いを聞けることでさらにA氏に近づけた気がしました。

ケモへの知識不足もあり、初めは怖いという思いでケモを行っていました。そんな時に苦手意識をもっていたA氏との些細なやりとりで、ケモを受ける患者の思い、実施時の注意点、副作用の観察について理解することができました。

今回、A氏との関係を不振り返って、これからも学びを深め、寄り添える看護をしたいと思いました。改めて看護観を見直し考える機会をつくることができました。



高校生応援企画！ 模擬面接今年も開催！

今年は2会場で行いました。



学校の先生でもなく、始めて会う医療専門家の面接官を前にして、練習していた人も、今日が初めての人もうまくできたかな…？



面接の後はひとりずつ評価をしてもらいました。本番までまだ時間はあるから…もっと良くなるように！

面接官の専務から総評をもらい、修了証の授与、総師長や先輩からの励ましの言葉などで、無事終了しました。



模擬面接会
がんばれ!高校生



勇気を振り絞って、面接に挑んだ受験生。ここに、来ただけでもすごい！これから練習をいかに積むかでやっぱり違いが出てくるしその熱意はきっと受験当日面接官に伝わる
いい結果がでる事を祈っています！



みんなそろって合格をめざそう！
応援しています！

受験シーズン真っただ中になってきました。ポツポツ良いお知らせも届きはじめました。ぜひ！結果を連絡してくださいね！待っています★

おしらせ
看護学生や看護師を目指す
高校生のみなさん！
12月24日(土)に生協病院にて、
恒例クリスマスボランティアを行います！
患者さんにプレゼントを
渡すボランティアです。
ボランティア後はちっちゃいクリスマス会と
ちっちゃいけど為になる看護ゼミ
「地域で健康寿命を延ばす医療生協
の取り組み」
を保健師さんがお話してく
れます！
改めてご案内しますので
ぜひ来てくださいね～★

今、自治体
からも
全国的にも
注目されてい
るんですよ！